

「東名ジャンクション（仮称）」
殿山横穴墓群に関する活用検討会
とりまとめ



平成 29 年 1 月 24 日

目 次

1	とりまとめまでの経緯	1
2	活用の方向性	
	(1) 遺跡の伝承	4
	(2) 出土品の展示	4
	(3) 3DデータとICTの有効利用	4
	(4) 教育資料の提供	5
	(5) 外環(周辺)施設などとの連携	5
	(6) 地域の魅力の発信	5
3	活用の具体化にあたって	6
	《参考資料》	
	(1) 委員名簿	7
	(2) 検討の経過	8
	(3) 委員から発言された活用アイデア例	8

1 とりまとめまでの経緯

東京外かく環状道路は、関越道から東名高速までの約 16km について、国土交通省、東日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社が、住民の理解と協力を得ながら、事業を推進している。

こうした中、東名ジャンクション（仮称）予定地では、平成 27 年 6 月に 2 基の横穴墓、同年 7 月に 15 基の横穴墓が相次いで出土し、世田谷区教育委員会と東京都教育委員会の指導に基づき、それぞれ発掘調査された。

同年 10 月 20 日に東京都教育委員会は、外環事業者に対し、発掘調査終了、調査地の引き渡し及び工事に着手して差し支えない旨を通知し、外環事業者は、工事を再開している。

一方、地域住民などから発見された殿山横穴墓の保存などを求める要望や殿山横穴墓群として、地域の街づくりのシンボルにすることを求める陳情が世田谷区や世田谷区議会に出された。また、世田谷区は、殿山横穴墓群を地域の教育的・文化的資源として活用したいと外環事業者に要望した。

こうした経緯を踏まえ、有識者、区民、世田谷区、外環事業者を委員とした「東名ジャンクション（仮称）」殿山横穴墓群に関する活用検討会を設置し、外環事業者が取得した横穴墓の三次元データなどを含む殿山横穴墓群に関する活用の方向性を検討することとなった。

本検討会においては、まず、外環道事業のこれまでの地域との話し合いによる線形変更の経緯や追加買収による地元の方々への新たな負担を鑑みると、再度線形変更することは現実的でないことから、横穴墓群の現地保存が難しいことを確認した。

また、横穴墓群の移設や実物大レプリカの製作は、水分がなくなると脆くなるという土の性質、更に横穴墓は崖面に掘り込んで作られる点に特徴があることから、現物の土を用いた実物大レプリカではなく、3D データ、写真、映像などの活用を検討することが望ましいことを確認した。

その後、区民から活用アイデアを募集するとともに、具体的な活用事例なども踏まえながら議論を重ね、3 回の検討会の中で、6 つの活用の方向性をとりまとめた。

《東名ジャンクション（仮称）》



《殿山横穴墓群の出土位置》



2 活用の方向性

外環事業の進展に伴い発見された殿山横穴墓そのものは失われてしまったが、横穴墓群が存在したという事実や出土品は、この地域の貴重な財産であることから、この歴史や財産を守り、文化財としての価値を高めていくことが必要である。また、地域の歴史や文化を示す教育的な財産としてのみならず、地域の活性化などに繋がる地域の人にとっての財産として、しっかりと後世に伝えていくことが何より重要である。

そのためには、発掘調査記録の公表に加え事業者が取得した3Dデータなどとともに、出土品を適切に保存・管理することが必要である。

その上で、殿山横穴墓群の発見を契機として、地域住民の郷土愛の涵養や地域コミュニティの活性化に寄与するような活用を図ることが望まれる。

検討会では、区民から募集した活用アイデアも採り入れながら、次の6つの活用の方向性をとりまとめた。今後、世田谷区と外環事業者においては、発掘調査記録や出土品などを後世に伝えられるよう、適切に保存・管理・公開するとともに、とりまとめた6つの方向性をもとに、積極的な活用を図られたい。

《活用の方向性1》

遺跡の伝承

《活用の方向性4》

教育資料の提供

《活用の方向性2》

出土品の展示

《活用の方向性5》

外環(周辺)施設などとの連携

《活用の方向性3》

3DデータとICTの有効利用
注) ICT: 情報通信技術

《活用の方向性6》

地域の魅力の発信

(1) 遺跡の伝承

殿山横穴墓群が存在したという事実や出土品は、地域の歴史や文化を後世に伝える貴重な財産である。

平成 27 年 9 月 25 日に実施された殿山横穴墓群の一般見学会に、専門家だけでなく子どもから大人までの 607 名が参加したことは、区民などの関心が非常に高いことを物語っている。

こうしたことから、地域住民が殿山横穴墓群を身近に感じることができるよう、遺跡の銘盤や案内板を発掘場所が見える近傍に設置するなど、訪れた者が安全かつ自由にアクセスできる場所に、殿山横穴墓群がこの地域に存在したことを明示することが重要である。

(2) 出土品の展示

出土品の実物は、適切に温度や湿度管理ができ、セキュリティが確保された博物館施設などで展示されるのが一般的である。

そのため、出土品を地域で展示するためには、そのレプリカや写真などを用いて、わかりやすく詳しい解説を加えるなどの工夫を施した上で、展示することが重要である。

なお、展示する場所については、新規の施設に限定せず、既存施設の利用なども含め、様々な工夫が必要である。

(3) 3DデータとICTの有効利用

外環事業者が取得した3Dデータを用いて横穴墓をビジュアル化し、まるでその中にいるような体感ができるという利用の仕方が魅力的である。

また、ICTを用いて、区が取り組むデジタルミュージアムとの連携や区や外環事業者のホームページでの情報提供などができることが望ましい。

こうしたことから、3DデータとICTを積極的に用いて、誰もが時と場所を選ばずに、殿山横穴墓群や出土品などの情報を得られるようにすることが重要である。

(4) 教育資料の提供

殿山横穴墓群を通じ、地域の歴史や文化を、次世代を担う子ども達に伝えていくことは、我々の責務である。

そのためには、殿山横穴墓群に加え、周辺の地形、地層や地質、当時の文化などの教育的な内容について、リーフレットやDVDを用いて分かりやすく解説することや、小・中学校で展示することなどにより、様々な学習機会を提供することが大切であり、それにより教育の幅も広がり、子どもたちの教育的興味を湧かせることができる。

こうしたことを通して、地域の子どもたちが歴史教育や校外学習などの学校教育の中で郷土の地誌を学び、郷土への愛着を育むことが重要である。

(5) 外環（周辺）施設などとの連携

外環事業によって生み出される発掘現場付近の空間を工夫することで、殿山横穴墓群をより身近に感じることができる。

そのためには、外環施設と周辺の空間づくりについては、殿山横穴墓群をモチーフにしたデザインを反映させるなど様々な工夫を施すことが望ましい。

こうしたことを通して、殿山横穴墓群や外環施設などを新たな地域資源に位置付け、周辺にある既存の公共施設や将来の上部空間利用などとも連携させていくことが重要である。

(6) 地域の魅力の発信

外環事業が進められている中、当該地において、約 1,300 年前の歴史が殿山横穴墓群として発見されたという事実は、非常にメッセージ性や発信力が高いものである。

また、外環事業は周辺住民の理解と協力を得ながら進められており、地域の魅力を高める契機となるものである。

こうしたことから、周辺住民に配慮しながらも、歴史と最新技術が交差する場所として外環事業と横穴墓群を合わせて広く区内外にPRすること、外環施設などの名称に殿山横穴墓群を用いることや地域のイベントで利用することなど、ソフト面での活用が重要である。

3 活用の具体化にあたって

検討会では、殿山横穴墓群の発見を契機として、地域住民の郷土愛の涵養や地域コミュニティの活性化に寄与するよう6つの活用の方向性をとりまとめた。

世田谷区と外環事業者においては、本とりまとめの趣旨に鑑み、横断的な連携と必要な財源の確保に努められたい。その上で、6つの方向性を踏まえた活用を実現することにより、殿山横穴墓群が存在したという事実や出土品を地域の歴史的・文化的に貴重な財産として、後世に伝えていくよう努められたい。

《殿山横穴墓群の発掘の様子》



《1号墓玄室の様子》



《出土品（須恵器）の様子》



《参考資料》

(1) 委員名簿

有識者	中野 恒明	芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科教授
	阿部 伸太	東京農業大学地域環境科学部造園科学科准教授
	小泉 玲子	昭和女子大学人間文化学部歴史文化学科教授
	砂金 伸治	国立研究開発法人土木研究所つくば中央研究所道路技術研究グループ上席研究員
区民	中川 清史	法人格成城自治会長
	荒川 和茂	喜多見上部自治会長
	八木 孝夫	石井戸会長
世田谷区	桐山 孝義	世田谷区砧総合支所副支所長
	青山 雅夫	世田谷区道路・交通政策部長
	工藤 郁淳	世田谷区教育委員会事務局教育政策部長
外環事業者	佐藤 眞平	国土交通省東京外かく環状国道事務所副所長
	安原 正幸	東日本高速道路株式会社東京外環工事事務所副所長
	野坂 光弘 (岩本 英將)	中日本高速道路株式会社東京工事事務所副所長

は座長、 は副座長を表す
 かつこ内は前任者を表す

(2) 検討の経過

実施内容	開催日	概要
第1回検討会	平成28年7月14日	・検討の方向性について
アイデア募集	平成28年9月16日～ 平成28年10月7日	・活用アイデアの募集 (応募者数：11名)
第2回検討会	平成28年11月17日	・活用について ・とりまとめについて
第3回検討会	平成29年1月24日	・とりまとめについて

(3) 委員から発言された活用アイデア例

【遺跡の伝承】

- ・現地付近に横穴墓群や出土品に関する解説板や銘盤の設置
- ・周辺の公園内や教育施設内などでの展示

【出土品の展示】

- ・勾玉や刀などの出土品、写真、映像などの展示
- ・学術的な比較や解釈などの解説をつけたわかりやすい展示
- ・民間活力を活用した展示施設の整備

【3DデータとICT（情報通信技術）の有効利用】

- ・3Dデータを活用した映像の作成
- ・ICTやデジタルミュージアムでの展示
- ・殿山横穴墓群や出土品などを解説したコンテンツの作成
- ・写真などの区や事業者のホームページへの掲載

【教育資料の提供】

- ・地域の自然、地形、歴史や文化などの学習機会の提供
- ・殿山横穴墓群や出土品の写真パネルの校外学習コーナーでの展示
- ・出土品や写真パネルなどの小学校での展示
- ・学習のためのリーフレット・DVDなどの作成

【外環（周辺）施設などとの連携】

- ・周辺にある公共施設との連携
- ・殿山横穴墓群をモチーフとした話題性や集客性のある関連施設の整備や空間作り
- ・施設の壁面への表示など横穴墓群の大きさを伝える展示
- ・立入防止柵などの現地近傍への殿山横穴墓群の写真パネルなどの表示

【地域の魅力の発信】

- ・外環事業の土木技術のPRでの活用
- ・外環事業の副次的な成果としてリーフレットなどでの紹介
- ・ジャンクションなど外環施設の名称での使用